

# マネジメントとして 意識に貯めておく言葉 365

仕事をより発展させるために…… 1

A.視点(47)…… 2

B.思考(43)…… 4

C.仕事(41)…… 7

D.協働(16)…… 9

E.挑戦(45)……10

F.教育(21)……12

G.社会(38)……13

H.知識(31)……15

I.変革(31)……17

J.時間(21)……18

K.表現(17)……20

L.自由(14)……21

()内の数は件数

伝えたい自分の言葉を残しておこう…31

**仕事をより発展させるために、  
自らの成長を加速するために、日々、確認したい言葉を  
綴ってみた。**

2012年2月29日から、毎日1つずつ、気付いたことを書き綴ってきた。今までの経験、失敗と、かすかな成功と、見聞したこと、マネジメントの実践、多くの人たちとの対話、組織の活動観察等を通して、確認または考えなおした方が良さだろうと思うことを書き並べた。

考え、理解し、行動に活かさねばならない言葉(思考ロジック)がたくさんある。どれほどの量があるのか見当もつかない。何かに秀でている人は、たくさんの優れた言葉を持っている。365の量ではなく、一千、二千と持っている。一つ一つの発言が、私たちの行動に示唆を与えてくれる。ここに挙げた言葉365は他の人に示唆を与えるほどではない。仲間と共に考えてみたい事柄で、共にそれぞれの活動の中で確認しておきたい言葉である。

一日に一つ、考えてみたいと思う言葉を365にまとめた。そして、視点、思考、仕事など12に分類した。分類はしたが、それぞれがつながっている。いつも思うだが、同時に365をすべて意識できればと。だが、一つ一つを自らのモノにしていけば、もしかしたら、365を意識できるかもしれないと、かすかに、自らに期待する。

私自身で書いたが、私自身が読み直す。何度も何度も読み直す。自らの行動が最適になるようにと読み直す。仕事をしているすべての人に、できれば一度は確認して欲しいと願う。もちろん、私自身が気をつけていなければならない言葉の数々である。

無意識と意識の中で私たちは仕事をしている。仕事は意識しているようであるが、行動は習慣的になりがちである。判断をするのも経験からの習慣である。80%ほどは現状に適切かもしれない。1つの現象でも、20%は初めてである。例えば、現象の5%が過去と違って、習慣的な判断をしたら、その判断は不適切になるかもしれない。判断をしたときも確認しなければならぬ。判断の形を意識しなければならぬ。マネジメントは知識として持っているはずだ。その知識は適切であるかを確認しなければならぬ。そのための言葉365である。

如何なる時も前を向いていたい。どのような状態になっても前へ進もうとする意識を失わないでいたい。常にしっかりと眼を開けて見ていたい。

2013年11月4日  
福田 真

## A 視点

001. 仕事をしているのを見ていて、彼はできるだろうかと不安になる。そして、彼をその責務から外そうとする。それは、彼の問題ではなく自分が自分を見失った証なのだ。

002. 1つの視点が、未だ気づいていない視点の存在を予感させる。初めての視点は、その新しさが次の発見の予感をかきたてる。だから、いま見ているモノに見落としがあるのではないかと不安になる。

003. 全体はけっして見えない。理解もできない。せいぜい、あなたの全体と私の全体の違いが分かるだけだ。どこまで見えるかを競ったところで、それらは人が知る蟻の世界でしかない。

004. 私には羅針盤とモノサシが必要なのだ。未だ確かな羅針盤とモノサシをつかんでいない。いつまでも探し続けるものなのかもしれない。

005. 歳をとって病をえて、生きようと思えば力強くなる。仕事をしていて、仕事を進めよと思うことが「生きよう」と思うことよりも強くなるのは何故だろう。明日が今日と同じようにやってくると思っているからだろうか。

006. 人口70億人。その中で一人でも、私の考えを丁寧に聞いてくれる人がいるのは有り難い。二人になれば、とても有り難い。少し増えれば、狂おしいほどに有り難い。謙虚に、まじめに、真剣に、学ばなければならない。

007.モチベーションを他人が上げることは難しい。職場でモチベーションを上げるのは上司と仲間に恵まれるしかない。だが、モチベーションを下げるはたやすい。出来にくいことを無理にさせればよい。彼の力を無視すればよい。モチベーションを上げることより、下げないために彼を考える方が、よほどたやすく、効果が上がる。

008. しあわせ。そばにあったモノを改めて見い出して幸せだと思ふ。なければないで良いのかもしれない。いつの日か、きっと、しあわせがそばにあったのだと気づくのだろう。

009. 情報に是非はない。有効、無効すらない。自らが気づいて情報となる。気づくために知識の相関・相反が必要である。経験が必要である。目的が必要である。何より、夢が必要である。

010. 1つの考えに没頭すると、周りの光景が見えなくなる。こだわるのは良いが、周りがあってこだわりがある。自らのこだわりも、様々な条件が重なりあって生まれる。

011. あきらめ、期待、ときめき、無念などを遠くへ押しやっ飛ばそう。感情を持つことなしに、目的を見つめ、平静にいるときこそ真理が追究できる。だが、常にざわめき、何かを感じ、分からぬ自分の渦の中にいる。だから、毎日が刺激的なのかもしれない。

012. 夏のひと時、車窓から見えた木々の緑の色がこいかった。40年前に見た緑色の濃さを思いだした。一層の暑さが緑を思いださせた。知と自然と記憶が一体化した瞬間のように思えた。

013. 見えたところしか分からない。見えたところも確かではなく気づくことも狭い。すべてを見たい、知りたいと思えば、混迷が広がっていく。

014. 諦めなどと言う単語がどうしてあるのだろう。たぶん、ほんとうの諦めなどがないから、使える言葉なのだろう。自分を止めることはできないのだから、諦めはちよとしたお休みにしておこう。

015. 明日を見つけたい。行く道の確信を持ちたい。だが、行ってみなければ分からない。思いを強くして、持ち物を確かめよう。この時のプライドは役にはたたない。

016. 自分の意地は何なのか。意地を通す程の信念があるのか。確かな信念なのか。意地は理屈も跳ね返す。

017. 発展する明日は、既に存在している。どこかで起こり始めている。既に眼にして、自身も巻き込まれているはずである。

018. 高いところに登って、手すりがあれば安心する。手すりが無ければ怖くなる。手すりがあるうとなかろうと、状況は変わらない。

019. 毎夜、毎夜、イノシシが現れる。食べる物が無くなって、現れ出てきて、罾が町の至るところに仕掛けられる。背に腹を変えられなく命を落とす。